

A

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

スポーツや学問がある種の苦行を必要とするというのは真実だ。それは芸能でも同じだろう。たしかに芸能で修行は絶対の条件であり、技は磨かれなければ到底見られたものではない。しかし芸術はどうだろうか。芸術に修行が必要だろうか。

たぶん、こんな疑問が出ること自体、僕らが芸術と芸能の区別をあまりうまくできていないことを示しているのではないか。

はつきり言うが、**芸術に技は必ずしも必要ではない。芸術に必要なのは、圧倒的に感性である。**

問一 本文の1行目から3行目までを、そのまま、解答欄に書き写しましょう。

問二 本文の「しかし芸術はどうだろうか。芸術に修行が必要だろうか。」の部分は、筆者からの問いかけです。それに対する筆者の考え(答え)の部分が になります。その部分を本文から抜き出し、解答欄に書きましょう。

スポーツや学問がある種の苦行を必要とするというのは真実だ。それは芸能でも同じだろう。たしかに芸能で修行は絶対の条件であり、技は磨かれなければ到底見られたものではない。しかし芸術はどうだろうか。芸術に修行が必要だろうか。

たぶん、こんな疑問が出ること自体、僕らが芸術と芸能の区別をあまりうまくできていないことを示しているのではないか。

はつきり言うが、。

B

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

ここ数年のベストセラーリストを眺めていると、自己啓発本がつねに上位を占めている傾向に気づく。多くの人がいまの自分に満足できず、なにかを変えたがっているようだ。スキルアップを図り、それを仕事に結びつけて出世したい。本もそのために「役立つ」なら読む。そういう気持ちだが、リストから透けて見える。

出世を願う気持ちを否定することはできない。しかし、本一冊を読んで、いきなり自己を変革しようというのはあまりに安易だ。

問 次の構造図の空欄 1 に入る言葉を本文から抜き出し、解答欄に書きましょう。

出世を願う気持ちを否定することはできない。

1、 ↔

本一冊を読んで、いきなり自己を変革しようというのはあまりに安易だ。

1

C

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

人生において目標が設定されると、脳はそれを達成するための情報処理のしくみをつくっていく。

問一 本文をそのまま、解答欄に書き写しましょう。

問二 次の空欄 1 は本文では 指示語 で書かれています。その指示語が指し示している部分(指示内容)を本文から抜き出し、解答欄に書きましょう。

人生において目標が設定されると、

脳は 1 を達成するための情報処理のしくみをつくっていく。



1

||

を達成するための情報処理のしくみをつくっていく。

D

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

正しい言葉というものは、たしかにある。しかし、実際に生活のなかで言葉が活きているのは、ひねりをかけて、そこからちよつと外した姿である。だから、逆に活きている言葉は、生活の外側にあるともいえる。

その造ったおもしろい言葉、ひねった言葉、隠語などが活きているということは、逆にいうと、ひねっているということを、皆が意識しているわけだ。つまり、正しい言葉のあり方を、じつは知っているということになる。

問 空欄 1、2 に入る言葉を本文から抜き出し、解答欄に書きましょう。

その造ったおもしろい言葉、ひねった言葉、隠語などが活きているということは、逆にいうと、1 わけだ。つまり、2 ということになる。

2

1